

取扱済

報告・供覧

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アジア局長 審議官 参事官 北東アジア課長 地域調整官 首席事務官	保存期間 1類 2類 3類 4類 (永久) (10年) (5年) (1年) 起案 平成 4 年 11 月 30 日 完結 平成 年 月 日 起案者 電話番号 周野 2416 前池田 地域政策課長
回覧先 山田補佐 法規課長 中		
下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。 件名 在韓被爆者問題 (別紙の要点等) 11月30日、本件に関し長崎市長から武藤亜化 長に対して行った陳情の概要。		
GA-7 (昭和63 4.1改正)		外務省 回覧番号

11月30日、本島長崎市市長は武藤北東アジア課長を来訪越し、以下のとおり陳情越したところ、要点以下のとおり。

1. まず、本島市長より以下のとおり述べた。

- (1) 10月に、韓国の被爆問題の現状を視察するために、韓国を訪問した。これは、従来社会党より、朝鮮半島の被爆者に対する理解を深めるために、北朝鮮を訪問するよう要請を受けていたところ、まずは南に行くべきであると思って訪問したものである。韓国では、被爆者団体との意見交換を行ったが、韓赤より便宜供与を受けた。訪韓の概要は報告書をご覧頂きたい（別添参照）。
- (2) 今回の訪韓に続き、明年1月～2月に、北朝鮮訪問を計画している。なお、先方は、長崎よりも関係団体を引き連れる訪朝するよう要望しているが、そのような大袈裟なことは考えていない。北朝鮮では、被爆者十数名と意見交換を行うことを考えている。なお、訪朝にはプレスも多数同行する予定である。
- (3) 在韓被爆者には、基金が創設され、日本政府より40億円の拠出が予定されているが、今回の訪韓で明らかになったことは、余命少ない被爆者は、病院建設よりも個人補償を望んでいるということである。当初の予定を変更するのが困難であることは理解するが、政府としても被爆者の立場を十分に尊重していただきたい。
- (4) 渡日治療は現在中断しているが、引き続き韓国内では日本での治療を希望する人がいる。長崎市としては、広島市とともに、渡日治療再開のために何ができるか検討している。広島市とはまだ連絡を取っていないが、広島県・市はこのために6千万円準備している由であり、長崎市としても、外国人被爆者のためのベッドを備えた新たな病院建設を予定している。可能ならば、政府の財政的支援を得たい。

2. これに対し、武藤北東アジア課長より、上記1.(1)の説明を多とするとともに、以下のとおり述べた。

- (1) 在韓被爆者問題については、被爆者支援のために日本政府が拠出する基金が設立されているが、拠出金の使途はガイドラインという形で日本政府と大韓赤十字社との間で合意がなされており、韓国政府も同意している。また、日本の戦後処理においては、いわゆる個人補償を行っていない。このような観点から、韓国側に対しては、ガイドラインに基づいた基金の使用（治療費、健康診断費、福祉センター建設費）を求めているところである。
- (2) 渡日治療については、韓国側の要請により中断し、それに代わる形で基金を設立した経緯があり、地方自治体の方で渡日治療支援を行われるのであれば、国としては反対はしないが、このような経緯もあり、政府としてそれを支援することは困難。なお、かかる支援を行われる場合には、日韓間の過去の問題を掘り出そうとする運動を勢い付けるおそれがあるところ、十分注意願いたい。（これに対し、先方より、市として行えることには限りがあるところ、政府よりはノウハウ面での支援だけでもお願いしたいと述べるところがあった。）

(了)

「大韓民国訪問についての報告」

今回、大韓民国赤十字社の招請により、十月十九日から十月二十三日の五日間大韓民国を訪問し、韓国人被爆者団体との交流及び被爆者の実情は握、在韓被爆者の見舞い、日韓親善に努めてまいりました。

その概要についてご報告致します。

まず、招請頂きました大韓民国赤十字社では、姜 英勲カン・ヨンフン総裁とお会い致しました。総裁からは「被爆者に対する医療関係は、日本が進んでいるので、被爆者を調査し、韓国で診療・治療のできない者は、日本の医療関係にお願いしようと思っている。従ってそのときは、ご協力を賜りたい。」とのお話しがありました。私は、今回の訪問の目的についてお話しするとともに「韓国の被爆者も日本の被爆者と同じ様に援護されるべきと考えており、韓国の被爆者の方々にお会いして皆さんの声をお聞きし、日本政府に伝えるべきものは伝えたい。」旨申し上げました。次に韓国原爆被害者協会本部とその支部をお訪ね致しました。そして、被爆都市の市長として戦争の経緯のなかで皆様方を肉体的にも精神的にも苦しめている原爆の被爆に至らしたことについて率直に謝罪し、お見舞いを申し上げます。また、本部、各支部の訪問については、約二百人の会員の方々にお会いし、お話しをお伺いすることができました。

皆様の声としては、生活の苦しさ、疾病についての悩み、高齢化に伴う不安が強く訴えられました。なお、日本政府の人的支援、四十億円については、個人へ配分して欲しいという声も多く伺いました。被爆者の方々の家庭へのお見舞いについては、八軒をお訪ねし、九人の方々にお会いいたしました。また三人の方々には、被害者協会の支部にお出で戴き、お会いすることができ、計十二人の方々にお見舞いと激励をするとともに、被爆に至った経緯についての謝りを申し上げました。

日韓親善については、ソウル市の副市長、大邱市の市長、釜山市の市長及び陝川郡の郡守さんにお会いし、被爆された市民の方々にお見舞いを申し上げに来たことをお伝えいただくことをお願いするとともに、第三回世界平和連帯都市市長会議の参加をお願いいたしました。三市とも前向きに検討したいとのご返事を戴きました。

今回の大韓民国訪問を振り返って見ますと、心の重い旅でしたが、韓国の被爆者の方々に現地で接した貴重な体験をもとに、被爆地の市長としてなにかできるものはないかと考えています。今後の問題については、内部で検討するとともに議会の皆様や関係される方々のご意見を拝聴しながら進めていきたいと思っております。

以上 概括的ではありますが、今回の大韓民国訪問についてのご報告と致します。

長崎市長の大韓民國訪問行程表

「別紙 1」

10月18日 福岡泊 (市長・秘書課長 東急ホテル、国文館長、認定係長 法華クラブ)

10月19日 福岡空港着 9:00 大韓航空待ち合い室 10:00 KE733 福岡空港発 11:15 金浦空港着 所定の手続き 12:00 出迎え 12:30 金浦空港発
バス(一行) 13:00 事務総長招宴 14:00 バス(一行) 14:30 総裁と懇談 15:30 バス移動 16:00
赤十字社前(市長) ヒルトン着 ヒルトン発 赤十字社着 赤十字社着 ソウル市庁着
副市長懇談 16:30 バス移動 17:00 被爆者見舞い 17:30 バス移動 18:00 ソウル支部懇談 19:00
ソウル市庁着 城東区着 城東区着 信愛会会館・ソウル支部着 懇親会場着
ソウル支部懇親 20:00 バス移動 20:30 ホテル着 (ソウルロッテホテル)
懇親会場発

10月20日 ホテル発 9:00 バス移動 9:30 記者会見 10:15 バス移動 12:00 昼食 12:30 バス移動 13:30
プレスセンター着 プレスセンター発 プライヴ着 プライヴ着 独立記念館着
独立記念館視察 15:00 バス移動 18:00 ホテル着(大邱) (琴湖ホテル)
独立記念館発

10月21日 ホテル発 9:00 バス移動 9:15 入館被爆者見舞い 9:45 バス移動 10:00 大邱市長と懇談 10:30 バス移動
大邱市庁着 大邱市庁着 大邱市庁着 大邱市庁着
12:00 郡守と懇談 12:15 バス移動 12:45 陝川支部と懇親 13:15 バス移動 13:30 陝川支部懇談
陝川市庁着 陝川市庁着 懇親会場着 懇親会場着 原爆診療所着
14:00 バス移動 15:00 陝川被爆者見舞い 16:00 バス移動 17:30 被爆者見舞い 18:30 バス移動
原爆診療所着 栗谷免着 栗谷免着 慶北善山郡着 慶北善山郡着
19:30 慶北支部懇親 21:00 バス移動 21:30 ホテル着 (大邱) (琴湖ホテル)
懇親会場着 懇親会場発

10月22日 ホテル発 9:00 バス移動 11:30 支部懇談 12:00 バス移動 12:15 慶南支部懇親 13:00 バス移動
慶南支部着 慶南支部着 懇親会場着 懇親会場着
15:00 釜山市長懇談 15:30 バス移動 16:00 被爆者見舞い 17:00 バス移動 17:30 懇談 17:45
釜山市庁着 釜山市庁着 釜山市 釜山市東区着 釜山支部着 釜山支部着
18:00 バス移動 18:30 釜山支部懇親 20:00 バス移動 20:30 記者会見
ホテル着 懇親会場着 懇親会場着 ホテル着 (釜山ハイアットホテル)
釜山支部着 釜山支部着

10月23日 ホテル発 9:00 バス移動 待ち合い室 12:25 KE774 13:20 所定の手続き 13:30 解散
金海空港着 長崎空港着 長崎空港

田中
秘書課長

DPK 田中 10月23日 10月24日

被爆者見舞い 10月23日 10月24日

市民病院
12階病室
10月23日 10月24日

長崎市長の訪問先及び訪問者(平成4年10月19日～23日)

H4・11・10

都市名	赤十字	市長等	韓国原爆被爆者協会			見舞いをした被爆者	病院等	その他
			支部名	会員数	見舞い者数			
ソウル市 (10/19 20)	大韓民国赤十字社 姜 英勳総裁 李 柄雄保健部長 全行程同行者 李 大田保健部 病院管理課長	ソウル特別市 白 相承副市長	○訪問先 ○木部 貴勲会長 ○ソウル支部長 具 洪社 畿湖支部長 金 敏經 湖南支部長 崔 英鎔	356	40	家庭訪問は9軒行いうち1軒は留守で 8軒9人に会った。 慶南支部で3人会い、計13人中 12人に会った。 丸数字は、訪問の順序		10月19日 空港出迎え 約20人 10月20日 プレスセンター 合同記者会見 約50人程度
大邱市 (10/21)	—	大邱直轄市 韓 明煥市長	○慶北支部長 李 碩禹	389	40		嶺南大学 附属病院 内科院長 李 賢雨	
陝川郡 (10/21)	—	陝川郡 金 漢培郡守	○陝川支部長 安 永千	582	20		陝川保健所 医師 李 承潤	
昌原市 (10/22)	—		○慶南支部長 金 日仙	336	20		(今回の訪問者) 長崎市長 本島 等 秘書課長 村田 敏之 財政部長 伊藤 達也 建設部長 原 敏隆 (行程) 10月19日 福岡～ソウル ソウル泊 10月20日 ソウル～大邱 大邱泊 10月21日 大邱～大邱 大邱泊 10月22日 大邱～釜山 釜山泊 10月23日 釜山～長崎	
釜山市 (10/22)	—	釜山直轄市 金 英煥市長	○釜山支部長 車 貞述	387	50			

10月22日

230734 長崎 10/22

① 長崎市の被爆者

釜山 釜山保健所
釜山保健所